

第19回 研究会サロン

2002年10月16日

街歩き、ロンドン調査報告、五箇山合掌造り民家調査報告など

■街歩き報告

まず始めに10月9日に実施された三ノ輪商店街の街歩き報告が田中謙太郎団員から行われました。いわゆる“ちんちん電車”（都電荒川線）に乗って目的地を目指すため10名限定という少人数で行われた今回の街歩きでしたが、久々に良い天気恵まれ絶好の街歩き日和となりました。

ジョイフル三ノ輪こと三ノ輪商店街の各店舗のファサード照明は実に個性的で、その写真が紹介されると皆さん興味津々で観ていました。各商店ともに全く統一感のない照明なんですけど不思議と不快な感じはなく、昭和ヘタイムスリップしたようななどこか懐かしい感じを参加した団員は感じたようでした。皆さんも都電に乗ってレトロなアーケード街“ジョイフル三ノ輪”を訪れてみてはどうですか。

■ロンドン調査報告

つづいて田中智香団員からはロンドンの調査報告です。最初に現在開発の進んでいるテムズ川沿いに近年開通した Jubilee Line の駅や周辺の写真が紹介されました。Jubilee Line の特徴は駅ごとに違った建築家がデザインをしているというところ、日本でいう大江戸線といったところでしょうか。アワードを獲った Westminster 駅をはじめ各駅の照明手法の違いや印象が報告されました。このテムズ川沿い付近は現在も開発が進んでいて今後も竣工予定の建築がいくつもあるとか。田中団員も数年後また訪れてみたいとの事でした。

次に紹介されたのは St. Martins Lane Hotel と My Hotel の2つのデザイナーズホテルです。特に St. Martins Lane Hotel は NY でデザイナー・ホテルを次々とオープンしたホテル経営者イアン・シュレーガーとフィリップ・スタルクが手がけた事で話題を呼んでいるホテルです。田中団員が部屋をあちこち調査する写真が紹介されると、「照明デザイナーたるもの部屋に着いたら荷を解いてくつろぐ前に隅々まで観察して写真をとるべし」と団長から照明探偵団の調査の基本を教えて頂きました。

■五箇山合掌造り民家調査報告

面出団長の教え子である武蔵野美術大学・空間演出学科の皆さんから五箇山合掌造り民家での調査報告がビデオの映像を交えて行われました。4泊5日に及ぶ調査の内容は民家内や、ろうそくの灯りの照度を測定したり、建物の実測調査を行ったりと本格的。映像の中には面出団長が料理をしたり、三味線を片手に美声を披露する姿など貴重なシーンも含まれていたり、会場は大いに盛り上がりました。また学生の皆さんの手によって編集されたビデオは非常に完成度が高く好評でした。

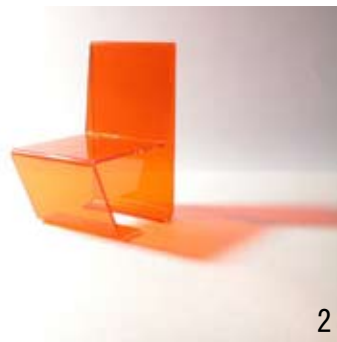
■ヒカリモノ

今回は吹谷団員からアクリルを使った椅子の模型が紹介されました。椅子そのものが光るわけではありませんが透明なアクリルの素材を透過する光がこの作品の見所。一枚のアクリル版を曲げ加工して作られた作品には団長から「なかなか丁寧で作られている」とお褒めの言葉を頂きました。団員の皆さんからも作品に対して色々と意見が出ましたが、将来的に商品化されたりすることもあるかもしれませんね。次回のサロンでも皆さんからの積極的な発表を期待しています。

(岡本 賢)



1



2



3

1. 吹谷団員によるアクリルチェアのプレゼンテーション
2. 今回の“ヒカリモノ”アクリルチェア
3. 田中智香団員による調査報告

第17回街歩き

2003年01月15日

カレッタ汐留

今後、続々オープンしてゆく“汐サイト”の超高層ビル。他に先駆け2002年11月にオープンした電通本社ビルをメインに、汐留再開発地区の光を調査しました。

■街歩きレポート・その1

今後、続々オープンしてゆく“汐サイト”の超高層ビル。他に先駆け2002年11月にオープンした電通本社ビルをメインに、汐留再開発地区の光を調査しました。

今回の街歩きは、ベイエリアの調査なので多少の風や寒さは覚悟していたものの、予想をはるかに上回る冷たい北風（海風？）が私たちを待ち受けていました。新橋駅に集合し目的地へ向かう途中、何よりも目立っていたのがブリッジ上の照明。汐サイトを見渡そうにも煌々と光り、私たちの視線を妨げていました。電通本社ビル前のブリッジは違う照明手法がとられており、私たちはようやく上や下を覗き込み、調査写真を撮ったり照度を計ったり。するとちょうど、ビル屋上から降りそそぐ光のオペレーションを体験することができました。キセノンランプ4kWのサーチライトによるそれは、ブリッジ上をゆっくりと移動し、歩いてゆく人々とともに活動的で楽しい雰囲気を創っていました。動く光を追いかけ照度をはかると、およそ700～1000ルクス。オペレーションに気付かない歩行者もいるようでしたが、光浴(?)はおもしろい体験なので夜の7時、8時、9時、10時頃を目指して訪れてみることをおすすめします。

その後あまりの寒さに、電通ビル・caretta内に逃げ込み、青い点滅光の高速エレベータで最上階へ。高所から眺める東京夜景も少しずつ変わっています。手軽に夜景を満喫できるので、平日でも訪れている人はたくさんいました。

(早川 亜紀)



1



2



3

1. 都電通ビルから眺められる東京夜景
2. 電通前ブリッジの調査風景
3. 懇親会は韓国料理でカラダの芯から温まりました

■街歩きレポート・その2

再開発の進む汐留地区。今回はそんな新しい息吹につつまれた地の中で、特に電通ビル、カレッタ汐留を中心とした街歩きが行われた。

簡単に照明探偵団5ヶ条を確認した後、強い風と気温の低さに縮みあがりながらも、団員たちは果敢に調査を開始。心地良い光と悪い光。自分の好きな光と嫌いな光。それぞれに意見を交わしながら街歩きはすすむ。今回、一番皆を沸かせたのは、やはり電通ビル屋上からビル前ブリッジへのサーチライトによる演出であろう。これは毎日19時～22時頃に毎時約12分間、人が歩く速さで、キセノンランプ4kWの光が路面上を動いていくもの。タイミングよく、この太陽に近い光に照

らしたされた人々は、生き生きとした表情を見せる。自分も実際に光の中に入ってみると、不思議なくらい、居心地のよさを感じた。やはり頭上から降りそそぐ自然光のような光は心地よい。一瞬、まわりが夜であることを忘れ、暖かさを感じる瞬間であった。

電通ビルをひとまわりした後、地下鉄大江戸線汐留駅とカレッタ汐留をむすぶ地下道へ。ここでは色温度約3500ケルビンの赤味のある照明が使われており、真っ白な光のひろがる地下道に慣れてしまった私たちに新鮮な驚きを与えてくれた。こういった、街の「玄関口」が一工夫されることで、街全体の持つ雰囲気は少しずつ形作られていくのである。

続いてはカレッタ汐留内へ。30店舗以上の飲食店や、電通四季劇場を内含するこの複合商業施設では、テナントごとに多様な光の表現を見ることができた。しかし、やはりここでも気になるのは、日本ではお馴染みの必要以上に明るいコンビニやドラッグストア。突如あらわれ、凶器のように雰囲気を壊す光に落胆しながらも、改めて全体を考えた照明計画の大切さを知る。最後は、高層ビルならではの美しい東京の都市夜景を楽しみながら、今回の汐留地区の街歩きは幕を閉じた。

(新開 まゆ)

第20回 研究会サロン

2003年01月28日

街歩き、イエメン調査報告、鞍馬の火祭り調査報告、TN 探偵団フォーラム2002 など

■サロンレポート・その2

今回の照明探偵団サロンは、五反田のデザインセンターで行なわれた第1回トランスナショナル探偵団、イエメン共和国、京都鞍馬の火祭、汐留開発地区「カレッタ汐留」の街歩き、この4つの報告で盛りだくさんであった。

その中でもこの2つ、イエメン共和国と汐留開発地区の報告が得に面白かったイエメンの1枚目の写真は、自分のいる時代さえもわからなくなりそうな、石と日干しレンガで造られた家々。かつてここが海のシルクロードの要衝として栄えていた輝かしい過去はすべて歴史の彼方に過ぎ去ったような茶色の景色だった。レンガの壁にむきだしに備えつけられた街灯。「やはり照明デザインについての意識のレベルはまだまだ低いようです…」とLPAの方が報告されている一方、横のテレビの画面に映っていたイエメンの夜明け前の静かな山の景色に私は夢中だった。青く発光した空は、アラビアンナイトの魔法の絨毯が本当に飛んでいそうな深い青色だった。

東京の都心は1日中、街頭や広告塔の照明が絶えることはなく、そんな光りに溢れた場

所では絶対に見ることのできない夜明け前の空の色。夜起きても、パチッと電気を付ければ明るく怖い思いもしない家で育った私ができることではないが、貧しさがイエメンの魅力を損なっているかといえば、その逆に感じた。

最後は汐留開発地区「カレッタ汐留」。地から上へ上へと何十層にも重なる、超高層ビルは、平面の地図には表せないような場所だ。そのビルに照明がつけば、その場の様子はさらに変化する。開発中の六本木ヒルズもそうだが、現在の東京は、平面から、空に向かう街作りが主となった。そんな完璧な建築の中の人工照明に驚くことはあっても感動することは少なく、その建築の内側に立っていると、自分の居場所が無い気がしてしまうことが多々ある。自然光の下で感じとった居心地の良さを感じる事が少ないのは、人工光の下にいる時にも、自然光から感じとった記憶を探してしまっているからかもしれない。偶然訪れた建築の中に、居心地の良さを感じたとしたら、過去にどこかで感じた記憶を無意識に重ね合わせているにいがいない。

(高橋 桃子)

■サロンレポート・その1

久しぶりに参加した今回のサロンはかなり盛りだくさんで、進行側も急ぎ足になり気味でした。それだけ探偵活動が充実していることだと思うと、ちょっとすごいなと思います。

発表された4つの報告の中で私自身が当日参加できたのはイエメンのみ、だから報告も新鮮で楽しく聞くことができました。ナショナル探偵団は世界各地の住宅の明かりについて報告されており、住む場所によって人間の感じ方が様々だということが、報告された映像からも伝わってきました。鞍馬の火祭りも是非来年は訪れたいと思った人も多いはず、実際に体感することが祭りの醍醐味なのではないかと思います。まったく違うタイプの4つの報告が照明という言葉キーワードに同じ時の中で報告されているサロンはやっぱり面白いものだと改めて感じました。

(竹内 聡美)



1. イエメンの調査報告をする橋本団員
2. TN 探偵団フォーラムの報告をする田沼団員
3. 料理そっこのけで熱心に聞き入る団員の皆さん

Transnational Tanteidan Forum 2002 in TOKYO 開催！

五反田・東京デザインセンター 2002/12/06

“TANTEIDAN”という単語を知っている人たちが日本以外にも増えてきています。これまで照明探偵団が行ってきた数々の活動に興味を示し、是非参加したいという探偵団員が海外にも現れてきました。今回行われたフォーラムはその海外版探偵団のキックオフミーティング。6都市からパネラーが参加して“Regionalな光環境”をテーマにディスカッションを行いました。



■ どうしてトランスナショナル？

「トランスナショナル照明探偵団 (Transnational Tanteidan)」は、世界に広がるネットワークを活かして、世界中の異なる光文化を調査し、比較考察するための光文化研究会として発足しました。世界中の各地域に育まれてきた特徴的な光文化はグローバル化が進み、世界が狭くなるにつれて、個性が無くなりつつあります。そんな状況に危機を感じて、それぞれの地域特有の光環境を報告し、お互いの違いを認め合う場としてトランスナショナル照明探偵団はスタートしました。Transnationalは“国境を越えた”という意味。国や地域に関係なく照明探偵していきましょう！というのが趣旨です。

■ テーマは“Regionalな光環境”

今回のフォーラムのテーマは、その国にしかない特徴的なあかり、その地域に生きた個性的な光文化、“Regionalな光環境”。ハンブルグ、ニューヨーク、コペンハーゲン、ストックホルム、シンガポール、東京の6都市から7名の参加者が参加して異なる視点からそれぞれの都市の光環境についてプレゼンテーションを行い、その後パネルディスカッションを行いました。現状の光環境を、都市、建築、住宅、イベントの4つのカテゴリーに分け、各パネラーが選んだ代表的な風景から光のマトリックスを作成。実際の光環境の違いだけでなく、パネラーたちの考え方の違いも現れた興味深い表ができました。

■ 北欧の美しい夜景の原因は光と陰にあった！

7名のパネラーの内、2人はデンマークとスウェーデンという北欧からの参加。私たちが常にお手本としたいような北欧の美しい光の扱い方を紹介してくれました。デンマークのKatjaは都市の中での抑制された光と陰の程よいバランスを紹介。湖などの豊富な自然を活かした演出などもさすが照明先進国という印象です。スウェーデンのAleksandraはあたたかな雰囲気を醸し出す住宅のあかりをキャンドルの写真を使って紹介。聞けば自宅のダイニングを撮影した写真だとのこと。キャンドル=生活の光、という意味を持つほど日常生活に溶け込んだスウェーデンならではの光景でした。

■ 自動販売機は善か悪か？！

パネルディスカッションでは“How do you like Tokyo night scape?”をテーマに掲げ、パネラーたちの目に映る東京夜景についての意見が交わされました。昼間とは全く異なる非日常の景色が街に現れる、それが東京夜景の魅力の一つであるようです。これまで度々照明探偵団でも取り上げてきた東京の夜の光害？の一つである自動販売機は、パネラーたちにとってもネオンサインや高層ビルの真っ白な蛍光灯とともに東京夜景を印象付ける要素の一つであった様子。善か悪かの結論は先送りとなりましたが、これからも東京夜景を語る上で欠かせないトピックスのようです。

■ ウェブサイト tanteidan.org もスタート

トランスナショナル照明探偵団のウェブサイト <http://www.tanteidan.org> を立ち上げました。これまでの探偵団の活動や各支部からの活動報告など、まだまだ建設途中ですが、今後は世界の仲間との意見交換を中心に、このサイトを発信地にアフリカ、中近東、中国などなど世界中に照明探偵団の仲間を増やしていく予定です。2003年8月にはストックホルムで第2回目のフォーラムも行われることが決定しました。トランスナショナル照明探偵団の今後の活動に乞うご期待下さい！

(田沼 彩子)



1. パネルディスカッションでは7名のパネラーたちがそれぞれの意見を交換した
2. NYから参加したJasonはエンターテインメント性あふれるプレゼンテーションを行った
3. 会場の東京デザインセンター・ガレリアホールには100名を超える参加者が集まった

面出の探偵ノート

●第31号 2003年02月12日(水)

ジェームス・タレルとの楽しいお話

今、話題の芸術家、ジェームス・タレルと2時間ばかり楽しい話をしました。タレルさんについては先刻ご存知の方も多しでしょう。光を扱った彼の数々のアートワークは、私たち照明デザイナーにとってもとても刺激的なものなので、思いがけずの対談を持ちかけられた時に、久しぶりに楽しくなりそうだ…と予感してました。

タレルさんはつい最近、大阪の梅田近辺に安藤忠雄さん設計の建築アート照明を完成させたのですが、対談の要請があった当初は、その来日の合間を縫って私の事務所LPAで対談する事になっていました。LPAのスタッフなどはあの偉大な芸術家がLPAにやってくる…というのでずいぶん興奮していた様子でしたが、直前になって東京での対談が危うくなりました。私は私でSeoulへの出張とSingaporeへの出張の狭間に1日だけ空いているだけなので、今回は会えないかなと思っていたのですが、最終的にドバイから関西空港にやってくるタレルの日程に合わせて、私もSeoulから直接関西空港に入る便に乗り換える事で、お互いに数時間だけ大阪で過ごす事ができるようになったのです。タイトな移動日程でした。ソウルの現場を早朝に視察し、インチョン空港を午後1時に発ち、関西経由で対談の場所、梅田の阪急インターナショナル・ホテルについたのが4時でした。私がスイートルームの特別室に息をきって到着した時には、既にタレルさんは準備万端。例の黒い帽子にふさふさのあごひげ姿で私を迎えてくれました。

対談風景を撮影してくれているのはナカサ&パートナーズの中道さん。背景となる白い壁にLEDの青い光を当て、前方から2台の白熱ランプのスポットライトのみ。部屋の窓からは夕方の弱い自然光が、しかし暖かそうに差し込んでいました。いい表情に撮れるかな？ 私はいつも決まってプロの写真家にカメラを向けられると、そんな風に想像しています。タレルさんは1943年アメリカ生まれだから私より7つ年上、還暦直前という事になる。しかしその手入れの行き届いた真っ白なあごひげのせいもあって、どう見ても60歳から70歳ほどに見える。しかし男前にいい表情をしている。「う～ん、きれいなあごひげですね。手入れが大変でしょう。床屋でやってもらうのですか」。私の対談の第一声はおかしな質問だった。「いや、それほど大変じゃないよ。週に1度ほど自分で手入れをするんだ。散髪には行っても、ひげには触らせないよ」。気難しそうに見えたが、けっこう気さくな方だと直感した。

対談では何を話したのだろう、あつという間に時間が過ぎてしまった。「私の仕事には常にクライアントがいて、その人の技量や世界観によって出来栄えが違ってくるけど、あなたの仕事は自分がクライアントだけに、心にいつも羽が生えているのでしょうか(笑)」。「照明デザイナーはタレルの仕事に大変インスパイアされているのですよ。あなたには長生きしてもらわないと…」、私は幾つかの賛辞を送ったつもりでした。「私たちの仕事にはたくさんの理屈や言い訳が回



ますが、あなたの仕事には仕事の成果だけが期待されている。製作途中で作品内容をこと細かく説明する必要もないのですね、羨ましいというか…。「面出さんの仕事も私の仕事も光と人間をテーマにしている。興味は人間の光に対する感じ方なのです」。「自然光をデザインするというのが私の究極のテーマです。もちろんLEDなどの新光源にも多くの事を期待していますが…」。「今、味覚の話をしてきましたが、一度味わった美味しい物は二度と忘れないのもですよ」「タレルさんの光の実験カプセルに入ったときは、緊張しました。あれは人体実験に近い…」。色々はトピックスがどんどん飛び出てきました。この対談内容は、カラーキネティック社は発行している雑誌CK VIEWS vol.3に掲載予定ですので、楽しみにしてください。

私は東京で夜に探偵団街歩きに合流する約束をしていたので、6時には対談を終了し、新幹線に飛び乗る事にしていました。対談の終了時には、それまで窓から入っていた自然光はとっぷりと暮れていて、ブルーモーメントの時間の中で写真家は断続的にシャッターを切っていました。そして数日後に届いたスナップの数々は、楽しい話を裏付けるのに十分な出来栄えだった。大男のタレルさんと小男の私が寄り添うように立っているスナップ。左右に分かれて色々な仕草をする二人。そして、私自身の表情のアップさえ、いつにない晴れやかな笑顔。つまり、楽しいお話をしている時、幸せな気分になっている時には表情も明るく多彩なのでしょう。久しぶりに楽しいお話ができました。

(面出 薫)



1. 熱の入った対談の様子

2. 団長とタレル氏の貴重な2ショット

面出団長

TBS ラジオ全国こども電話相談室に出演！

1月25日、池袋サンシャイン60の展望台で暮れゆく東京の夜景を背景に、TBSラジオ・全国こども電話相談室の公開録音があり、面出団長がプロ・ナチュラリスト・佐々木洋氏、サンシャイン国際水族館・飼育員の富山昌弘氏とともに“夜景の先生”として出演。会場に集まったたくさんの子供たちからの「東京タワーにランプはいくつ付いているの？」、「ブラックライトに虫やイカが集まるのはなぜ？」など、元気なパワーに押され気味になりつつも質問に答えました。



パネラーの先生方と録音に臨む



会場の子供たちからは元気な質問が相次いだ

★★投稿募集中★★

照明探偵団通信 vol.16 (次号) の原稿を募集しています。独自の照明探偵レポート、光に思う今日の日本、照明について知りたいこと、疑問に思っていることなどなど、テーマは何でも結構です。日頃ひかり、あかりなどについて思っていることや様々なレポートを照明探偵団通信に発表してみませんか。原稿は、e-mail で送付して下さい。メール上記述でも原稿テキストファイル添付でもOKです。投稿お待ちしております！

照明探偵団・事務局
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10
ライティングプランナーズ アソシエーツ内
TEL : 03-5469-1022 FAX : 03-5469-1023
e-mail=tanteidan@lighting.co.jp <http://www.lighting.co.jp/tanteidan/>

【照明探偵団の活動は以下の24社にご協賛いただいております。】

ルートロンアスカ株式会社 岩崎電気株式会社 松下電工株式会社 東芝ライテック株式会社 小糸工業株式会社 株式会社菱晃
ヤマギワ株式会社 カラーキネティクスジャパン株式会社 株式会社ウシオスペックス 山田照明株式会社 マックスレイ株式会社 オーデリック株式会社 ニッポ電機株式会社 株式会社エルコ・トートー 株式会社ウシオユーテック 日本フィリップス株式会社 小泉産業株式会社 株式会社遠藤照明 大光電機株式会社 湘南工作販売株式会社 金門電気株式会社 日本電池株式会社 トキ・コーポレーション株式会社 マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社

照明探偵団日記

最近、夜景を高いところから見る機会が何度かありました。冬は空気が乾燥して澄んでいるため、夜景がとてもクリアでキレイ。池袋のサンシャイン60からは太陽が富士山に飲み込まれてから街が輝き出すまでの様子をつぶさに観察することができました。富士山まで視界を遮る高い建物が無いため、都会に居ながらにして雄大な富士山を臨めるということを発見。六本木のアークヒルズからはいつも遠くに小さく見えている東京タワーがスケール感を保ったまま、お台場を背景にすぐ間近に見えます。新鮮だったのが新潟・万代島に今年5月にオープンする高層の展望台からの眺め。信濃川に架かる万代橋を初めとしたライトアップされたいくつかの橋と街、日本海の大きな闇が一度に見渡すことができます。大きな闇が夜景を引き立てるということを実感できた体験でした。夜景を観察するベストの時間帯は、ご存知の通り“ブルーモーメント”と呼ばれる日没後のほんのわずかの地上が青の波長に染まる間。時間にして10分程度の短い時間です。この時間を逃しては美しい夜景を語ることはできませんのでご注意ください。

(田沼 彩子)